

科目名	社会学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松澤秀樹		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	スクールソーシャルワーカーとして勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	人と社会の関係や社会システムを理解し、現代社会の様相を捉える。また、種々の社会問題について説明できる						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					現代の社会システムについて知ることができる。	
	○					現代の社会で起こっている課題について考察できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会学とは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	家族の社会学			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	生活と社会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	社会変動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	人口と社会			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	コミュニティとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	社会システム(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	社会システム(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	社会的行為と社会的役割			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	社会集団と組織			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	社会関係資本と社会連帯			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	社会問題の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	日本社会と社会問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	共生社会と権利			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	社会学について(全体まとめ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会保障論(前期／通年)						
科目名(英)	Social Security						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	林 孝和		
実施年度	2020年度	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	社会福祉士として教員勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	社会保障の概念や歴史、構造、財源や費用について講義を行う。また、高齢者の所得保障を目的とした年金保険制度を取り上げる。社会保障に関する新聞記事や最近の出来事を取り上げ、配布資料をもとに講義を進め、視聴覚教材を使用することによりさらに理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障の目的について理解し、その概要を説明することができる。	
	○	○				社会保障制度の体系を理解し、その課題について説明することができる。	
	○	○				我が国の社会保障制度が整備された経緯・歴史を理解し、その概要を説明することができる。	
	○	○				社会保障制度のメリット・デメリットを理解し、給付と財源のバランスを理解することができる。	
	○	○				年金保険制度の内容を理解し、その概要を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 社会福祉士養成講座12「社会保障論」第6版</li> <li>中央法規出版 見て覚える！社会福祉士国試ナビ</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保障論とは何を学ぶのか、オリエンテーション					
	2	私たちを取り巻く社会保障とは何か、ライフヒストリーを作りながら					
	3	社会保障が当面する課題1 少子化の原因と現代の若者が抱える課題					
	4	社会保障が当面する課題2 高齢化の原因と現代の高齢者が抱える課題					
	5	社会保障の理念と機能 どんな機能がリスクへの備えになるのか					
	6	日本の社会保障の歴史1 戦後から高度経済成長時代					
	7	日本の社会保障の歴史2 安定成長期からバブル景気平成不況へ					
	8	社会保障の仕組み 社会保険と社会扶助の違い					
	9	社会保障のメリット・デメリット 社会保険と社会扶助の特徴					
	10	社会保障の財源 保険料と税					
	11	年金保険制度の概要					
	12	国民年金制度 具体的なケースを参照しながら					
	13	厚生年金制度 具体的なケースを参照しながら					
	14	社会保障の財源をどこに 理想の形とは一体なにか					
	15	総括・まとめ					
評価方法	(1)定期試験(マークシート、論述等)を実施する。(2)配布資料を提出させる。(3)授業内で発表させる。以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				○		10%
	提出物				○		10%
履修上の注意	通年で出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	法学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	梁田史郎		
実施年度	2020年	実施時期	前期	担当者実務経験	大学等非常勤講師		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	ソーシャルワーカーが権利擁護の役割を担うためには、相談援助の活動と法・法律との関連を理解する必要があります。まず、憲法の基本原理、とりわけ基本的人権に関する理解は必要不可欠です。また、社会福祉サービス利用と関連して民法の契約法の理解も大切です。さらに、判断能力が不十分な人を支援し保護するための成年後見制度について勉強します。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				相談援助活動と法とのかかわりを知る。	
	○	○				日本国憲法の基本原理を知る。	
	○	○				行政法の枠組みを知る。	
	○	○				民法上の制度(契約、不法行為等)を知る。	
	○	○				成年後見制度の概要を知る。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 第19巻「権利擁護と成年後見制度」(中央法規)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	相談援助活動において想定される法律問題				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	2	日本国憲法の理解① 憲法の基本原理				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	3	日本国憲法の理解② 基本的人権				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	4	日本国憲法の理解③ 統治機構				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	5	行政法の理解① 行政法の基本原理				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	6	行政法の理解② 国家賠償法				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	7	民法の理解① 総則				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	8	民法の理解② 契約法				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	9	民法の理解③ 不法行為法				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	10	民法の理解④ 家族法				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	11	成年後見制度① 法定後見制度				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	12	成年後見制度② 任意後見制度				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	13	日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	14	権利擁護にかかわる組織・団体				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
	15	権利擁護にかかわる専門職の役割と活動の実際				教科書の該当範囲を読み、わからない用語等を調べ、内容の理解に努めること(2時間)	
評価方法	(定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				100%
履修上の注意	法・法律関係の文章は専門用語が多く、言葉の意味を調べてからでないと理解できないかもしれません。授業でも可能な限り説明しますが、各自、予習の段階で辞書等で調べておいてください。出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	地域福祉論(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	社会福祉士として スクールソーシャルワーカーで勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	福祉現場において、ミクロ・メゾ・マクロの視点を持ち、個人の福祉課題を地域の福祉課題と捉えコミュニティソーシャルワークの実践につなげることのできる人材の育成を目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域福祉の発展過程について説明することができる	
		○				地域福祉の主体について学び、福祉教育の必要性と方法についての説明することができる	
	○					地域福祉実践における行政組織の役割について説明することができる	
	○					地域福祉実践における民間組織の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座9「地域福祉の理論と方法」中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション					
	2	地域福祉の発展過程について					
	3	地域福祉の基本的な考え方「地域福祉の理論の発展、理念」					
	4	地域福祉の基本的な考え方「地域のとらえ方、地域組織の種類」					
	5	地域福祉の主体と福祉教育①					
	6	地域福祉の主体と福祉教育②グループワーク					
	7	地域福祉の主体と福祉教育②グループワーク、発表					
	8	行政組織と民間組織の役割と実際「行政組織」					
	9	行政組織と民間組織の役割と実際「民間組織」①グループワーク					
	10	行政組織と民間組織の役割と実際「民間組織」②グループワーク					
	11	行政組織と民間組織の役割と実際「民間組織」③発表					
	12	コミュニティソーシャルワーク①					
	13	コミュニティソーシャルワーク②					
	14	まとめ					
15	試験前オリエンテーション						
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		○		◎		20%
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。 出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	老人福祉論(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	機原 弘司		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	独立型社会福祉士		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	地域を基盤としたソーシャルワークの担い手としての実践力の高い社会福祉士養成を目指して、以下の5項目のねらいにそって講義を進めていく。①高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待、地域移行、高齢者就労を含む)について理解させる。②高齢者福祉制度の発展過程について理解させる。③介護の概念や対象及びその理念等について理解させる。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解させる。⑤終末期ケアの在り方(人間観、死生観を含む)について理解させる。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					高齢者の生活実態について説明できる。	
	○	◎		○		高齢者を取り巻く社会情勢について説明できる。	
	◎					高齢者の福祉需要について説明できる。	
	◎					高齢者福祉制度の発展過程について説明できる。	
	◎					高齢者介護の概念・対象・理念について説明できる。	
	◎					高齢者介護過程における基本的な技法を説明できる。	
	○	◎		○		高齢者介護過程における基本的な技法を行うことができる。	
	◎					高齢者介護予防の基本的な考え方を説明できる。	
◎					終末期ケアの在り方について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	「高齢者に対する支援と介護保険制度」(中央法規出版株)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高齢者の特性 ー高齢者の総合的(社会的・身体的・精神的)理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	少子高齢社会と社会的問題 ー少子高齢社会到来の背景・要因と高齢者を取り巻く諸問題(地域移行問題、高齢者就労問題)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	高齢者保健福祉の発展過程 ー高齢者保健福祉制度の起源と生成				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	高齢者保健福祉の発展過程 ー高齢者保健福祉制度の発展				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	高齢者保健福祉制度の発展過程 ー[演習] これからの高齢者像(高齢者年齢再定義化議論)についての具体的な検討				教科書の該当範囲、配布資料を事前に読んでおくこと	
	6	高齢者支援の関係法令 ー高齢者保健福祉の法体系(老人福祉法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	高齢者支援の関係法令 ー高齢者保健福祉の法体系(高齢者虐待防止法の概要)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	高齢者支援の関係法令 ー高齢者保健福祉の法体系(高齢者医療確保法、高齢者住まい法等の概要)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	介護保険制度の基本的枠組み ー全体像及び目的・理念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	介護保険制度の基本的枠組み ー財政及び主体(保険者と被保険者)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	介護保険制度の仕組み ー要介護(支援)認定プロセス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	介護保険制度の仕組み ー保険給付、介護報酬				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護保険制度の仕組み ー地域支援事業				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	介護保険制度の仕組み ー介護保険事業計画他				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	前期(第1回～14回)講義内容のまとめ及び当該範囲の復習小テスト				教科書の該当範囲の復習をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(前期・後期一筆記試験)を実施する。(2)授業中に小テストを2回実施する。(3)事例検討・発表を2回実施する。*成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
宿題提出・発表等	○	◎		○		20%	
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉施設経営論(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	百枝孝泰		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	高齢者施設にて施設長として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	福祉サービスの中核を担う専門職として必要な福祉サービスを提供する組織やその経営や管理についての基礎的な知識について習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○		◎		福祉サービスにかかわる組織や団体について説明できる	
	◎	○		◎		福祉サービスの組織と経営に関する基礎的な理論を説明できる	
	○	◎		◎		福祉サービスの管理運営法の基礎を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営 / 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉サービスにおける組織と経営(1)オリエンテーション					
	2	福祉サービスにおける組織と経営(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	福祉サービスにおける組織と経営(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	福祉サービスに関わる組織や団体(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	福祉サービスに関わる組織や団体(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	福祉サービスに関わる組織や団体(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	福祉サービスに関わる組織や団体(4)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(1)戦略				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(2)事業計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(3)組織原則				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(4)管理運営の基礎理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(5)集団力学に関する基礎				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(6)リーダーシップ理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(7)リーダーシップ理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	振り返り						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	児童福祉論						
科目名(英)	Child Welfare						
単位数	2	時間数	30	担当者	郡嶋かおる		
実施年度	2020	実施時期	前期	担当者実務経験	障がい児者施設指導員後大学勝因		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年						
授業概要	2019年度には出生数は80万人台をなり、超少子化社会となっている。子育て環境も大きく変化し、家庭機能を支える社会的支援が大きな社会的課題となっている。こうした社会背景や動向を踏まえ、最低限必要な児童福祉制度やその周辺に関する知識や情報、児童や家庭に対する支援の土台となる考え方や理念について学ぶ。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:	実技:	※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	今日の児童や家庭に対する社会的課題について説明できる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	少子化の要因について説明することができる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	児童・家庭にかかわる法制度について説明できる	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	児童・家庭にかかわる法制度について説明できる家庭福祉を担う組織・団体について説明できる。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	児童家庭に対する経済的支援について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書:福祉と介護の動向2019/2020、社会福祉士の教科書TAC 等、資料を配布						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童・家庭を取り巻く社会環境					
	2	児童・家庭福祉の展開					
	3	児童福祉法の概要					
	4	児童福祉法の概要②					
	5	母子保健法、児童虐待防止法の概要					
	6	DV防止法及び売春防止法の概要、ミニテスト①					
	7	母子及び父子並びに寡婦福祉法の概要					
	8	少子化社会対策基本法/次世代育成支援対策推進法					
	9	児童手当法、児童扶養手当法、特別児童手当法の概要					
	10	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割					
	11	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際、ミニテスト②					
	12	児童・家庭福祉制度における講師の役割					
	13	児童相談所の役割					
	14	児童・家庭への施設と地域での支援活動					
	15	まとめ、試験に向けて					
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	本試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				70%
	ミニ試験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				20%
	平常点				<input type="radio"/>		10%
履修上の注意	内容は状況によって変更することもある。積極的に発言すること。配布資料を閉じるためのファイルを準備すること。スマホ等はカバン等に片づけておくこと。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉行政論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平田 俊浩		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	市役所にて勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科・3年						
授業概要	福祉国家においては国民の福祉は様々な制度によって構築され、保障されている。福祉制度は、地域住民のニーズに応じた福祉計画に基づく運営が目指されている。社会福祉実践を行う専門職者として、そのしくみと意義を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各福祉計画の目的と特徴を説明することができる。	
	○					福祉の法制度のおおまかな流れについて説明することができる。	
	○					福祉計画作成にあたっての住民参加の方法を説明することができる。	
		○				高齢化がもたらす福祉財源に関する課題について自分で考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・科目説明 ・福祉と制度 ・福祉の法制度の展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	・行政の骨格 ・社会福祉と法制度 ・福祉行政の組織				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	・社会福祉基礎構造 ・財源と社会福祉				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	・一般会計予算と社会保障関係費の動向				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	・地方自治体と民生費の動向				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	・福祉サービスの利用と費用負担				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	・小テスト①				既習範囲を復習しておくこと	
	8	・福祉計画の目的・意義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	・福祉計画における住民参加				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	・老人福祉計画・介護保険事業計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	・障害者計画・障害福祉計画 ・次世代育成支援行動計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	・地域福祉計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	・小テスト②				既習範囲を復習しておくこと	
	14	・科目のまとめ①				既習範囲を復習しておくこと	
15	・科目のまとめ②				既習範囲を復習しておくこと		
評価方法	(定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト(4回)	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品 授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名	社会福祉援助技術演習Ⅱ(前期/通年)						
科目名(英)	Social Work Support ExerciseⅡ						
単位数	8	時間数	120	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	(前期・通年)	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年回		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	社会福祉援助技術演習Ⅰを土台として、専門的な知識と技術および理論をロールプレイング等を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論家し体系立てていくことができる能力を滋養する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			ソーシャルワークの基礎実践力を、事例検討やフィールドワークで身につける。	
	○	○	○			卒業研究を通して、社会問題の現状とソーシャルワークの視点からの課題を見抜けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~3	自分史作成Ⅰ~3 自己覚知の課題として、各自で自分自身のライフストーリーを、時代別に区切ってワードにて作成する。					
	4~5	卒業研究1~2 卒業研究のグループを発表して、グループに分かれてそれぞれのテーマを話し合う。					
	6~13	ハンセン病問題の学習1~8 ハンセン病の問題を、グループ学習を通して学習し、療養所のフィールドワークのための事前学習を行う。					
	14~17	ハンセン病療養所 フィールドワーク 熊本県にある元ハンセン病療養所である菊地恵楓園に見学に行き、元患者からの講義を受け、園内を見学する。				後日、菊池恵楓園のフィールドワークのレポートを提出する	
	18~19	自分史3~4 自分史の作成の続きを行う。					
	20~21	ハンセン病 振り返り1~2 菊地恵楓園の見学を通して学んだことを振り返り、全体で共有する。					
	22~23	自分史5~7 自分史の作成の続きを行い、各自の「自己アセスメント表」を作成する。				後日、自分史および自己アセスメント表を提出する。	
	24~30	卒業研究3~10 グループごと、テーマを定めてその問題についての調べ学習を進める。					
評価方法	卒業研究を、定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	○		◎	○	40%
	発表・作品	◎	○		◎	○	40%
出席率				◎		20%	
履修上の注意	出席が40回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉現場実習指導Ⅱ（前期/通年）						
科目名(英)	Social Work Training ilstructionⅡ						
単位数	4	時間数	60	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	(前期/通年)	担当者実務経験	障害者施設 支援員 7年間		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年生						
授業概要	社会福祉現場実習指導Ⅰを土台として、相談援助技術の専門性を知識・技術・価値の側面から理解した上で、実践的な知識を更に滋養し、具体的かつ実践的な技術等を体得する。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					行政実習の目的・内容を理解する。	
	○					施設実習の目的・内容を理解する。	
		○				ソーシャルワーク実習をイメージでき、学びのポイントを理解できるようになる。	
				○		実習を振り返り、自分自身の課題を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	施設実習準備1 実習施設の発表・「施設実習 事前学習シート」の作成					
	2	施設実習準備2 「施設実習 事前学習シート」の作成・「実習生調査表」の作成					
	3						
	4	施設実習準備3～7 グループ調べ学習					
	5						
	6						
	7	施設実習準備7～8 グループ調べ学習 発表					
	8						
	9	行政実習の準備1 実習先の決定・自己紹介表の作成・記録の綴じ作業					
	10	行政実習の準備2 自己紹介表の作成・「行政実習 事前学習シート」の作成					
	11	行政実習の準備3～4 「行政実習 事前学習シート」の作成					
	12						
	13	施設実習の準備9 誓約書の作成・実習計画書の下書き					
	14	施設実習の準備10～11 実習計画書の作成					
15							
評価方法	通常授業の発表・意欲・態度等を総合的に判断して評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	◎	○		◎	○	80%
	出席率				◎		20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会調査の基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	社会福祉士として スクールソーシャルワーカーで勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年次						
授業概要	社会調査の意義と目的、社会調査の概要に加え、基本的な調査の方法について理解し、福祉現場において、社会的ニーズ、利用者満足度やサービスの評価等を客観的視点で把握する能力を身につけ実践につなげることのできる人材の育成を目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会調査の意義と必要性について説明することができる	
	○					社会調査の方法について説明することができる	
		○				量的調査の方法について学び、実践に結び付けることができる	
		○				質的調査の方法について学び、実践に結びつけることができる	
○					社会調査の倫理と個人情報保護の方法について説明することができる		
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座5「社会調査の基礎 第3版」中央法規出版 ￥2200						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション					
	2	社会調査の概要、種類について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	社会調査の歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	量的調査の方法「量的調査の種類と調査票調査について」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	量的調査の方法「尺度、調査票作成における留意点」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	量的調査の方法「調査票作成の方法について」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	量的調査の方法「調査票作成と分析について」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	質的調査の方法「質的調査の種類」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	質的調査の方法「質的調査の実施方法」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	質的調査の方法「分析」				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	社会調査の結果と発表の方法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	社会調査における倫理と個人情報保護				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	社会調査におけるITの活用				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	まとめ					
15	試験前オリエンテーション						
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品		○		◎		20%	
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。 出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	就労支援サービス						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	濱中美紀		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	NPOのボランティアコーディネーター		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科3年生						
授業概要	①相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について説明できる。 ②就労支援に係る組織、団体及び専門職について説明できる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		「就労」の価値を自分なりに説明できる	
	○	○		○		就労支援制度を説明できる	
	○	○		○		社会福祉士としての役割を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉養成講座 就労支援サービス						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	働くことの意味と社会福祉士の役割				理解度確認	
	2	雇用・就労の動向と施策				前回の振り返り	
	3	障害者と就労支援				前回の振り返り	
	4	低所得者と就労支援				前回の振り返り	
	5	専門職の役割と実際				前回の振り返り	
	6	就労支援の連携と実際				前回の振り返り	
	7	さまざまな働き方の支援				前回の振り返り	
	8	まとめ、レポート作成について				前回の振り返り	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	振り返りを数回実施する。期末レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回ふり返り・感想文	○	○		◎		20%
	ワーク等への参加度	○	○		◎		10%
	レポート	○	○		◎		40%
	出席	○	○		◎		30%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	更生保護制度						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	百枝孝泰		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者施設にて施設長として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	犯罪や非行を犯した者に対して、その再犯を防ぎ、更生させるための施設内教育から社会内教育への移行や実施の手だてや仕組み、支援のあり方等を社会福祉と関連させながら考えることができる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○		◎		更生保護制度の概要を知る	
	◎	○		◎		更生保護の担い手を説明できる	
	◎	○		◎		更生保護制度における関係機関、団体との連携について知る	
	◎	○		◎		医療観察制度の概要について説明できる	
	◎	◎		◎		更生保護の実際と今後の展望について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会 / 「新・社会福祉士養成講座」20 更生保護制度 / 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	罪を犯した人びとの現状					
	2	更生保護制度の概要(1)					
	3	更生保護制度の概要(2)					
	4	更生保護の担い手について					
	5	関係機関・団体との連携					
	6	医療観察制度の概要					
	7	更生保護の実際と今後の展望					
	8	振り返り(今後の展望と課題)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	福祉事務所運営論						
科目名(英)	Welfare office management theory						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三谷 茂男		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	市役所にてCW、面接員として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 3年						
授業概要	<p>・福祉事務所は、地域福祉行政における中核的行政機関であり、住民に最も近い社会福祉の総合的行政機関である。福祉事務所の歴史的経過を学ぶことで、戦後日本の社会福祉制度の概要を知る。また、福祉事務所の運営に大きな影響を与えた「地方分権」と「社会福祉基礎構造改革」を学ぶことで、戦後日本の福祉制度の変遷を知る。</p> <p>・社会福祉専門職が追求すべき相談援助の価値と倫理を学ぶ。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					社会福祉実践の福祉事務所の歴史的意義を理解し、説明できる。	
	○					社会福祉の実践機関の役割を説明できる。	
	○					社会福祉の法制度が説明できる。	
	○					社会福祉援助技術を理解し、社会福祉主事の倫理を知る。	
			○			確認テストや発表を積極的に行える。	
テキスト・教材 参考図書	『福祉事務所運営論』、ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉事務所の組織と運営			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。		
	2	福祉事務所の成立と歴史的展開①			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	3	福祉事務所の成立と歴史的展開②			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	4	社会福祉の行政機関の役割			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	5	福祉事務所の業務と組織			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	6	福祉事務所の運営と社会資源の連携			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	7	福祉事務所の運営と民生委員の役割			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	8	福祉事務所の専門職員			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	9	社会福祉主事の専門性と倫理			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	10	社会福祉援助技術の展開①			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	11	社会福祉援助技術の展開②			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	12	福祉事務所を巡る法制度①			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	13	福祉事務所を巡る法制度②			・教科書の該当部分を事前に読み、理解に努める。 ・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。		
	14	自立支援の事例や福祉関連の新聞記事のグループワーク			・前回の確認テストを行うので、前回の復習をすること。 ・積極的にグループワークに参加すること。		
15	個人発表			・グループ討議を受けて、個人発表を行う(1人5分程度)。			
評価方法	<p>・定期試験(筆記) 70%…講義内容を理解しているか、自分の考えを論理的に展開できるかを評価します。</p> <p>・日常的な授業における取組状況の評価 30%…毎回行う振り返りの理解度 20%、講義中の発言当 10%</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	確認テスト	◎	○				20%
	発表・態度				◎		10%
履修上の注意	<p>・新聞等を中心に社会問題に常に関心を持ってください。</p> <p>・他の受講生の学習環境を阻害する行為は禁止とします。</p> <p>・出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。</p>						